

風しん対策事業（予防接種）説明書

先天性風しん症候群を予防するための予防接種は、任意予防接種（ご自身の判断で接種するかどうか決めるものです）です。

風しんは、免疫のない女性が妊娠中（特に妊娠初期）に感染すると、胎児が先天性風しん症候群（難聴、心疾患、白内障などの障害）となるおそれがあります。

市では下記の対象者に麻しん風しん混合（MR混合）又は風しん単体の予防接種を実施いたします。以下の注意事項を接種前に必ず読んでください。

1 対象者

立川市内に住所を有する19歳以上の妊娠を予定又は希望する女性と、その同居者及び妊婦の同居者で、次の①～③のいずれかに該当する方。

- ① 風しん抗体検査事業における抗体検査の結果、抗体価が十分ではないとされた場合
- ② 妊婦健診で抗体価が十分ではないことが判明し、出産後に速やかに予防接種を受ける場合
- ③ 自身で医療機関での抗体検査を受け（自由診療）、抗体価が十分ではないとされたため予防接種を希望する場合（抗体価が十分ではないことが書類等で確認できる場合）。

※妊娠中の方は接種できません。予防接種後2か月間は妊娠を避けることが必要です。

2 実施期間 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

3 実施方法 市内指定医療機関で予約をし、接種してください。

4 実施場所 市内指定医療機関（4ページ）

- 5 必要書類
- 1) 予診票（医療機関に置いてあります）
 - 2) 住所等確認書類（下記3種のうちいずれか）
※運転免許証、健康保険証、発行から3か月以内の住民票
 - 3) 対象者②、③の方については抗体価が十分でないことを確認出来る書類等
 - 4) 自ら抗体検査を行っていて予防接種のみを希望される「同居者」の方については、あわせて「風しん予防接種届出書」（医療機関に置いてあります）

6 自己負担額 麻しん風しん（MR）混合ワクチン 5,000円
風しん単抗原ワクチン 3,500円

※生活保護受給者等の方は、「受給証明書」の提出で接種費用が免除されます。
※接種対象期間外や市内指定医療機関以外で接種を受けた場合は、全額自己負担になります。また、接種後の費用の払い戻しはありません。

7 接種前の注意

- ① この説明書を必ず読んでから接種してください。
- ② 健康状態によく注意し、少しでも体調が悪ければ接種しないでください。

8 接種不適合者と接種要注意者

* 予防接種を受けることができない者

- ① 明らかな発熱を呈している者（37.5℃以上をいいます）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ③ 接種しようとするワクチンの接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな者（アナフィラキシーとは接種後30分以内に起こる重い即時型のアレルギー）
- ④ 妊娠している者
- ⑤ その他、医師が不適当な状態と判断した者
医療機関において、**接種不可と診断された場合は助成されません。**
(全額自己負担です。)

* 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない者

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患および発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな者
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた者及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者
- ③ 過去にけいれんの既往のある者
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーを呈するおそれのある者

9 予防接種の接種間隔

(1) 違う種類のワクチンを接種する場合の間隔

注射生ワクチン（麻しん、風しん、水痘、おたふくかぜ等）を接種後は、27日以上の間隔をあけて次のワクチンを接種する。

※同じ種類のワクチンを複数回接種する必要がある場合は、それぞれ定められた間隔をあける。

(2) 疾病罹患後の間隔

麻しんについては、治癒後4週間程度の間隔をあける。

水痘及びおたふくかぜについては、治癒後2～4週間程度の間隔をあける。

その他のウイルス性疾患（突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑等）については、治癒後1～2週間の間隔をあける。

10 接種後の注意

- ① 接種後30分間は、ショックや重いアレルギー症状がおこることがありますので医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- ② 接種部位は清潔に保ちましょう。接種後1時間以上経過すれば、入浴をしても差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ③ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が現れた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ④ 接種後4週間は体調に注意しましょう。また接種後腫れが目立つときなどは医師にご相談ください。
- ⑤ 接種当日は激しい運動はさけてください。

11 予防接種の有効性

予防接種は、その病気にかからないことを目的にしていますが、受ける人の体質、その時の体調などによって抵抗力（免疫）ができないこともあります。

抵抗力（免疫）ができたかどうかを知りたい場合には、血液をとって血中の抗体を測定すれば（有料）わかる場合もあります。

12 麻しん（はしか）の症状

麻しんウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うとまた39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は7～9人、肺炎は1～6人に合併します。脳炎は1,000人に2人の割合で発生がみられます。また、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は約5万例に1例発生します。また、麻しん（はしか）にかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。

13 風しんの症状

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

14 麻しん風しん混合ワクチンについて

麻しんウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

既に麻しん、風しんの両方ともかかってしまった場合には接種の必要はありません。

なお、ガンマグロブリンの注射を受けたことがある方についての接種時期については、かかりつけ医と相談してください。

15 副反応

副反応の主なものは、発熱と発疹です。これらの症状は接種後4～14日に多くでます。なお、接種直後から数日中に過敏症状と考えられる発熱、発疹、そう痒などがでることがありますが、1～3日で治ります。

これまでの麻しんワクチン、風しんワクチンの副反応のデータから、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が、まれに生じる可能性もあります。

16 予防接種法の定期接種によらない任意の接種によって健康被害（医薬品を適正にしようしたにもかかわらず発生した副作用により入院が必要な程度の疾患や障害など）が生じた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法による被害救済の対象となります。

お問い合わせは 立川市保健医療部健康推進課予防健診係

TEL 042-527-3272